

# 森の学校復活大作戦

— 生物多様性ささやま戦略 —

## 概要版



平成25年5月

篠山市

## 映画「森の学校」とその頃の篠山市の多様な自然

映画「森の学校」（2002年 西垣吉春監督(篠山市出身)）は、篠山市在住の霊長類学の世界的権威である河合雅雄氏の『少年動物誌』をもとに映画化したもので、豊かな自然に恵まれた昭和10年代の篠山が舞台です。そこでは、子どもたちが楽しく群れ遊び、動物や植物と戯れ、のびのびと育っていきます。田んぼや川や森を泥だらけになりながら駆け回り、自然や動物とふれあい、のびのびと育つ子どもたちの日常を通して、生きものの命や家族のきずな、森や川の大切さが描かれています。

その頃の篠山の豊かな自然を取りもどし、篠山市の多様な生物環境を将来の子どもたちに引き継ぐとともに、その自然の楽しみ方やおもしろさ、また大切さを伝えていくために「森の学校復活大作戦」と名付けて、生物多様性ささやま戦略を策定します。



# 森の学校

©2002森の学校製作委員会

## 失われていく自然と生きもの

篠山市には、市域を取り囲むようにそびえる山や平野部を流れる川、里山や農地など、生きものが住む自然環境がたくさんありました。春になると小川ではメダカやフナが泳ぎ、カエルが産卵する、夏になると水路では水草が花を咲かせ、ホタルが飛び交う、秋になると赤トンボが乱舞し、冬には渡り鳥が飛来する、このような四季それぞれの美しい自然と生きものの姿があり、そこに住む私たちに大きな安らぎや喜びを与えてくれました。

しかし、ここ数十年の間、戦後の経済成長とともに、多くの開発が行われ私たちの暮らしは便利に安全になりましたが、反面私たちの身のまわりの自然の姿は大きく変わり、生きものの生息環境が失われ、多くの種が篠山から姿を消したり、その危機に瀕しています。

### （山林）

山に光が入らないために下草などの植物が育たず、保水力などの公益的機能も果たせなくなっているところが多くなっています。

手入れ不足の高齢人工林▶



### （河川）

河道の掘削や直線化、護岸や河床のコンクリート三面張り、沼や湿地の埋立、堰などの設置により、生きものにとって大切なさまざまな水辺、瀬や淵、変化に富んだ河原などが減少しています。

三面張りの河川▶



## (農地・水路)

ため池や湿地の減少、湿田の乾田化、水路のコンクリート化などにより、生きものの生育、産卵場所が減少しています。



▲コンクリートU字溝

## 篠山市におけるこれまでの取り組み

篠山市の自然環境が大きな危機を迎えるなか、少しずつではありますが、子どもたちや地域を中心に自然や生きものを守り、これらを取り戻していく取り組みが進められています。また行政にも自然環境に配慮した施策が求められるようになりつつあります。

### (子どもたちや地域の取り組み)

オヤニラミやオオサンショウウオなどの魚類・両生類、ゲンジボタルやオオムラサキなどの昆虫類、サギソウやクリンソウなどの植物を、学校や地域で保全する取り組みが行われてきました。



▲村雲小学校によるオヤニラミのふ化・放流



▲旧後川小学校によるオオサンショウウオふ化・放流



▲産業高校丹南校や地域のゲンジボタル生息地保護



▲篠山小学校などによるオオムラサキのふ化・放蝶



▲篠山自然の会などによるササユリの植栽



▲クリンソウを守る会などによるクリンソウ自生地保護



▲サギソウ保存会などによるサギソウ自生地保護



▲大山宮天然物保存会などによるアズマイチゲなど山野草自生地保護

## （行政の取り組み）

河川に魚道やスロープを設置したり流れに変化をもたせて瀬や淵を再生する事業や、篠山城跡の堀で外来生物の駆除を行うなど、生きものの生息環境を守る取り組みをしています。



▲篠山川に設置した魚道

▲オオサンショウウオ用スロープ

▲武庫川人と自然の川づくり

▲篠山城跡での外来種駆除作業

## 策定の目的

本来、豊かであった篠山市の自然や生きものたちの姿は、ここ数十年の間に大きく変貌し、失われつつあります。今を生きる私たちは、ささやまの自然環境を保全、再生し、これを未来の子どもたちにつなげていく責務があります。

幼い子どもたちから高齢者まで、人間が持っている「生きものが好きだ」「無益な殺生はせず命を大切にする」など、生きものへの思いやりは多くの人に共通した素朴な感情で、このことが“人が人の命を大切にする思いやり”の社会につながります。また、多くの生きものが生息できる環境は、同時に人間にとっても住みよい環境となるもので、人々に安らぎやうるおい、幸せを感じさせてくれます。

そして今、地球規模でも、多くの生きものや、その生息地を守ろうとする取り組みが進められ、平成22年には愛知県において「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されました。このようななか、篠山市においても、かつての美しい自然と生きものを復活させるため「森の学校復活大作戦」と名付けて、生物多様性ささやま戦略を策定します。

## 基本目標と理想とする将来像

### 基本目標

未来につなごう「篠山の美しい自然と生きもの」

森の学校の精神を尊重し、そこに描かれた昔の自然を理想の姿と信じながらも、失われた自然を完全に元に戻すことは困難ですが、現実の自然環境に合った姿を模索し、望ましい将来像に近づけるとともに、未来の篠山市民に現状より良くなった自然環境をつないでいくために、この基本目標を定めます。

かつての人々が身近に感じてきた豊かな自然の恵みを取り戻し、さらに保全して未来の世代まで持続するための指標として“生物多様性の面から見た望ましい将来像”のいくつかを挙げてみます。

## ○春

☆冬眠から目覚めたカエルやヘビが土の中から顔を出し、メダカの泳ぐ小川の土手には、ふきのとうが顔を出しています。

☆南の国からツバメがやってきて、水田の上をとびまわっています。その水田からはカエルの大合唱が聞こえます。

☆山々に白いタムシバの花が咲き、羽化したばかりのギフチョウが春の雑木林を飛び交っています。



## ○夏

☆クヌギやコナラの林では子どもたちが木の蜜に集まるカブトムシやクワガタムシをとっています。そこでは国蝶のオオムラサキの姿も見るすることができます。

☆川では子どもたちがフナやカワムツなどの魚とりを楽しみ、田んぼにつながる水路ではドジョウやゲンゴロウが泳ぎ、田んぼと行き来して暮らしています。

☆山すそにササユリの花が咲く頃、夜には川沿いでゲンジボタルが乱舞しています。



## ○秋

☆秋には、田んぼの畔の土手にはヒガンバナが咲いて風景が赤く染まっています。

☆稲刈りが終わった田んぼ上を赤とんぼが群れて飛んでいます。

☆山では広葉樹がどんぐりをたくさん落とし、子どもたちが拾ってどんぐりコマを作って遊んでいます。

☆夜はコオロギやクツワムシなど秋の虫の音が響き渡り、人々が耳を傾けています。



## ○冬から早春

☆川や池にはマガモやオシドリなどの渡り鳥が飛来し、羽根を休めています。

☆冬期、湛水された農地では、2月にはヤマアカガエルやカスミサンショウウオなどの両生類が産卵し、湿地にすむ生きもののすみかとなっています。

☆里ではアズマイチゲやセツブンソウなどの早春の山野草が咲き、人々が観賞して楽しんでいます。



# 基本方針

## 1. 生きものの生息環境の保全

山林や河川、農地などさまざまな生きものの生息環境を、それぞれの場所に応じて適切に保全・再生をします。

### (1) 山林

☆間伐などの手入れが行き届いていないスギやヒノキなど針葉樹林の人工林では間伐を進めます。部分伐採した跡地には、コナラやシバグリなどの広葉樹を植栽し、植物層を豊かにします。

☆現在、希少な動植物が多く分布している自然林には極力手を入れず、適正な保護を図ります。

☆コナラやアカマツなどの里山林は、さまざまな動植物の生育・生息の場となっています。また、新しい利用方法として、小鳥たちが集まってきたり、子どもたちが昆虫とりをするなど、生きものとのふれあいの場・森あそびの場として、地域住民とともに文化林としての再生を進めます。

### (2) 河川・水辺環境

☆整備に際しては、自然の流れの形状を保持し、直線的・画一的な形状にならないよう工夫します。

☆岸については、コンクリート、ブロックなどの使用を抑え、土や木・石、地域の風土にあった植生など自然の素材を使用するとともに、やむを得ずコンクリート製品を使用する場合でも、表面処理の工夫、覆土などを行い、生態系に配慮します。河床については、特別必要のない限り自然のままとします。

☆三面張りの解消、段差工の改良、河川と河川のつながりの確保、魚やホタル、トンボなど生きものが棲みつきやすい川辺林や瀬・淵の確保、子どもが遊べる川辺づくりに取り組みます。



▲篠山川



▲武庫川

### (3) 農地・水路

☆環境との調和を配慮するため生態系保全型の整備に転換し、農村の自然環境を取り戻していきます。

☆農地まわりについては、生きものが移動できる構造や生きものの冬眠・繁殖の環境を維持できるよう工夫します。

☆水路については、土や木、石など、自然の素材を活用しながら可能な限り片側だけの整備とし、水路底は自然のままとします。また、やむを得ずコンクリート等を使用する場合でも、水路底は自然のまま若しくは自然に復元できる構造としたり、表面処理や高さの工夫、溜まり場や生物脱出用スロープ、転落防止用蓋などの配慮をします。

☆冬期湛水で、冬期に作付しない田んぼに水を張ったり、耕作放棄田を整備して水を張る田んぼビオトープを推進して、少なくとも水辺の生きものすみ場所を確保していきます。



▲石積みと土の水路護岸



▲冬期湛水田（ふゆみずたんぼ）

#### (4) 重要地域や希少種生息地域の選定と保全

☆篠山の生物多様性を保全するために、この地域を特徴づける、または代表する生態系を適切に保全します。

☆すでに学校や地域住民の手によって保全に取り組まれている種もありますが、野生の動植物の生息・生育の場となっている重要な地域の選定を



▲剛山周辺



▲クリンソウ群落

さらに進め、新たな保全地域の設定や拡充について検討を行い、多様な生きものの生息または生育地として重要な役割をもつ地域の保全を図ります。

## 2. 野生生物の保護・管理

野生鳥獣の生息状況に関する情報を集め、適切な管理の方法を検討するとともに、外来生物の拡大を防ぐため、啓発をしながら駆除の方法についても検討します。

### 外来生物法

生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から「特定外来生物」を指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制するものです。

飼育や運搬、野外へ放つ、植える及びまくことが禁止され、違反すると個人の場合懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金、法人の場合1億円以下の罰金に該当することがあります。

次に、侵略的外来生物による被害を予防するための3原則を紹介します。

1. 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に**入れない!**
2. 飼っている外来生物を野外に**捨てない!**
3. 野外にすでにいる外来生物は他地域に**広げない!**

☆特定外来生物には以下のような種類が指定されています（一部）。

動物：アライグマ、ヌートリア、カミツキガメ、ウシガエル、カダヤシ、オオクチバス、コクチバス、ブルーギル、など

植物：オオキンケイギク、オオカワヂシャ、アレチウリ、オオフサモ、ボタンウキクサ、など

## 3. 自然環境に配慮した農業の推進

草刈りや水路の泥上げなど農業を営むうえで欠かせない活動に際しても、時期や方法など生きものの生息環境に配慮する方法を模索します。

## 4. 環境教育・環境学習機会の充実

自然の中での遊びを十分に体験していない子どもたちに、自然の原体験の機会をつくとともに、学校での環境学習の充実を図ります。



▲田んぼビオトープ



▲モリアオガエル卵塊観察

## 戦略の進め方

### 1. 期間

今後30年間を目標とし、達成できるよう取り組み、必要に応じ、見直していきます。

### 2. 市の推進体制

篠山市は生物多様性の保全・回復のため、以下のとおり取り組みます。

特に河川、水路、道路などの工事に際しては、生きものの生息環境に配慮した工事を行います。

- 「森の学校推進委員会」の設置
- 生物多様性アドバイザーの選任

生物多様性に関して専門的な知見を有するアドバイザーを選任し、本戦略の推進に関する助言を受けることとします。

- 工事担当技術者の育成
- 生物多様性配慮指針の作成

市民が生き物の生息環境を保全するため、身近に行える配慮指針を作成します。

- 自然再生事業や補助金制度の創設

自然再生を図る事業に積極的に取り組むとともに、生物多様性を保全するために活動している市民や団体などを支援するため、必要な経費を助成する補助金制度を創設します。

- 生物多様性に関する普及啓発

生きものの生息環境の保全について必要な情報を収集・整理し、積極的に提供します。

### 3. 市民の役割

日常生活の中で、生物多様性がどのように役立っているか、また、人が生物多様性とどのように関わっているかについて理解を深めつつ、積極的に実践しましょう。

## 森の学校復活大作戦

### — 生物多様性ささやま戦略 —

発行：篠山市

担当：市民生活部 環境課